

学校用ケースライティング・チェックシート（表）

【登場人物】 ケースの登場人物に○をつける

子ども	ケースの中心となる子ども 友人 クラスメート その他（ ）
学校	担任 養護教諭 校長 教頭 学年主事 教務主事 生徒指導主事 部活動顧問 スクールカウンセラー 学校医 その他（ ）
家庭	父 母 祖父母 兄 姉 弟 妹 その他（ ）
地域	病院（主治医/看護師） 児童相談所 保健所 保健センター 教育委員会 警察 その他（ ）

【テーマ】 該当するものに○をつける（複数可）

疾病の理解と対応 障がいの理解と対応 いじめ 虐待 不登校 保健室登校
 問題行動への指導 組織の連携と協力 学級経営 保健室経営 キャリア教育
 その他（ ）

【内容】 該当する場合は○、しない場合は×をつける 記述されているが不十分な場合は△とする

観点1:教育課題を含んだ学習テーマ	チェック欄
（1）学習テーマが学習者にわかるように記述されているか	
（2）学習者が興味をもって取り組めるテーマか	
（3）学習者の教育観・指導観・子ども観・養護観などの価値観を問うテーマか	
観点2:ケースの物語性	
（1）問題を取り巻く複数の人物が登場し、それぞれの心情が書かれているか	
（2）登場人物が意思決定をせまられる場面があるか	
（3）意思決定場面对立構造になっているか	
（4）ストーリーに臨場感やスピード感があるか	
（5）筆者の分析や考察が書かれていないか	
観点3:問題のアセスメント	
（1）子どもをアセスメントする情報（身体面・精神面・社会面等）が書かれているか	
（2）子どもを取り巻く集団（クラス等）をアセスメントする情報が書かれているか	
（3）家庭、教員をアセスメントする情報が書かれているか	
観点4 連携に関わる情報	
（1）家庭や職員間等の連携に関わる情報が書かれているか	
（2）学校と地域や関係機関の連携に関わる情報が書かれているか	
（3）世間の動向など保護者や教員に影響を与える社会的背景が書かれているか	
観点5 文章の表現・形式	
（1）一文は短く、平易な表現で書かれているか	
（2）時系列で書かれ過去形の記述（会話は別）になっているか	
（3）小見出し、段落構成など読みやすい工夫がされているか	
（4）専門用語を使用していないか	
（5）差別用語が使われていないか	
（6）個人や団体が特定されないよう配慮されているか	

学校用ケースライティング・チェックシート（裏）

評価の観点 解説

観点1:教育課題を含んだ学習テーマ
学習者がケースを読んで学習テーマを理解できるように記述することが重要である。さらに喫緊の教育テーマや、学習者が将来遭遇する可能性があるなど、興味を持って取り組めるテーマが望ましい。起きている事象だけを取り上げるのではなく、学習者の教育観・指導観・子ども観を揺さぶるテーマであると、議論が深まる。
観点2:ケースの物語性
ケースを読むことは現場で起きていることを疑似体験することである。ケースを読んだあとに、これはどうにかしなくてはと思わせる臨場感とスピード感が必要となる。現実味をもたせるためには、問題を取り巻く複数の人物が登場し、それぞれの心情が書かれていることが望ましい。さらに登場人物が意思決定を求められる場面、意見が対立する場面を設定することで、議論が深まる。ケースは客観的に書かれることが求められることから、筆者の考察や分析は記述しない。
観点3:問題のアセスメント
事象を解決するためには問題をアセスメントする必要がある。学校は子どもを中心に保護者・教員で構成されているため、この3者の情報が不足していると十分なアセスメントを行えない。さらにそれらに影響を与える社会・行政や関係機関の情報も時として必要となる。
観点4:連携に関わる情報
学校において連携はキーワードである。学校で起きている問題は学校だけでは解決できない。家庭と学校の連携、学校内の教員同士の連携、学校と関係機関の連携の要素を記述することが求められる。
観点5:文章の表現・形式
ケースを読む際は読みやすさが求められる。1文は短くし、平易な文章で書き、小見出しや段落構成を工夫すると読みやすくなる。内容は過去形で書き（会話文は別）、時系列で書くと読みやすい。さらに個人や団体が特定されないなどの倫理的配慮も必要となる。